

2024年度入試 傾向と対策

数学②

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	I	小問集合（数列の和・3次関数・2直線のなす角・場合の数）	やや易
	II	複素数平面（記述式）	標準
	III	微分の定義（数Ⅲ）・積分の計算（数Ⅲ）（記述式）	標準
	IV	等式・不等式の証明（記述式）	標準
2/3	I	小問集合（平面ベクトル・正弦定理・グラフの描き方（数Ⅲ）・面積体積（数Ⅲ））	標準
	II	不等式の証明（記述式）	標準
	III	平面ベクトル・図形と方程式（記述式）	標準
	IV	場合の数（記述式）	やや難
2/5	1	指数方程式	やや易
	2	循環小数	やや易
	3	図形と方程式	標準
	4	微分の計算（数Ⅲ）	やや易
	5	空間ベクトル	標準
	6	接線と曲線の長さ（数Ⅲ）	標準
	7	確率	やや難

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学ⅠⅡⅢA Bの全範囲である。

b. 出題内容

数学ⅠⅡⅢA Bのあらゆる内容から出題されている。

●問題の形式

小問集合はマークシートに正しい数字をマークするマークセンス方式である。また、記述式の解答は白紙の解答用紙に1から解答を書き上げていく形式である。

●難易度

設問の多くは教科書に記載されている基本～標準的な内容であるが、稀に教科書の「発展」や「参考」レベルの問題も出る。

【学習対策】

●ヤマを張ることなく全範囲の学習をすること

中部大学の入試問題は、教科書全般から幅広く出題されている。まずは、教科書の例題レベルの問題を隅々まで解き、基礎～標準レベルの問題が出来ているかをチェックしてみよう。

●過去問の対策が重要

一通り学習が終了したら過去問をやってみよう。本番と同じ時間で解いてみてどのくらい解答できるかを確かめ、間違った問題は「これからの伸びしろ」と考えて、その単元に戻って重点的に復習してみよう。

●記述式は添削してもらうこと

記述式の解答は自分一人で解答しても、それが本当に正解の解答なのかどうかは自分では判断できない。模範解答と部分的に違っていても正しい場合もある為、解答を書いてみたら数学の先生に解答を添削してもらうのが一番だ。

数学①

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2 ・経営情報 ・国際関係 ・人文	I	(1) 数学 I 数と式 (式の値)	標準
		(2) 数学 I 2次関数 (絶対値を含む2次不等式)	標準
		(3) 数学 I 2次関数 (3点を通る放物線の決定)	やや易
		(4) 数学 I 集合と命題 (必要条件と十分条件)	やや易
		(5) 数学 I データの分析 (標準偏差、相関係数)	標準
	II	数学 I 2次関数 (絶対値を含む関数のグラフとxに平行な直線との交点の個数)	標準
2/3 ・経営情報 ・国際関係 ・人文	III	数学 I 図形と計量 (余弦定理と正弦定理)	標準
	I	(1) 数学 I 数と式 (式の値)	標準
		(2) 数学 A 場合の数と確率 (和事象の確率)	標準
		(3) 数学 I 図形と計量 (正弦定理、角の二等分線の公式)	標準
		(4) 数学 I 2次関数 (2変数の2次式の最大値と最小値)	やや難
		(5) 数学 A 図形の性質 (円周角の定理、方べきの定理)	やや易
	II	数学 I 2次関数 (2次不等式、絶対値を含む関数のグラフとx軸に平行な直線との共有点の個数と座標)	標準
	III	数学 I データの分析 (平均値、分散、共分散、相関係数)	標準

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/5	1	数学Ⅰ 数と式（式の値）	易
	2	数学Ⅰ 数と式（1次方程式の応用）	やや易
	3	数学Ⅰ 図形と計量（三角比）	やや易
	4	数学Ⅰ 2次関数（絶対値を含む2次不等式）	やや難
	5	数学Ⅰ 数と式（集合の共通部分と和集合、要素の個数）	標準
	6	数学Ⅰ 図形と計量（余弦定理、正弦定理）	標準
	7	数学Ⅰ 図形と計量（円錐、側面上の最短経路）	やや難
	8	数学A 場合の数と確率（和事象の確率）	やや易
	9	数学Ⅰ データの分析（平均値、標準偏差、中央値）	標準

●出題形式

マークセンス方式の問題と記述解答を求める問題が出題される。出題内容は対称式の値、必要条件と十分条件、集合と要素の個数、絶対値を含む2次不等式、2次関数、三角比の値や図形への利用、データの分析、確率、図形の性質とすべての分野からまんべんなく出題される。試験時間は60分である。

【学習アドバイス】

●基礎力を徹底しよう

数学Ⅰ・Aの各単元から偏りなく出題されており、学校で習った内容がきちんと身についているかどうかを問うような素直な問題が多い。まずは教科書をきちんと読んで基本事項の内容をしっかりと理解することから始めよう。公式を暗記するだけでなく、公式の成り立ちや使い方を教科書の練習問題を解くことで身につけよう。また、難しめの問題集をやる必要はなく、教科書の章末問題や教科書傍用問題集を演習することで十分合格点を狙える。演習する際は、一度解いた問題の解法パターンは必ず記憶しておこう。また、間違えた問題に関しては何度も解きなおし、なぜその解法を用いるのかを考えるようにしよう。

●頻出問題に慣れる

数学Ⅰ・Aの各単元から偏りなく出題されるが、その中でも特に対称式の値を求める問題、絶対値を含む2次不等式・2次関数、三角比を用いた図形の計量、データの分析は頻出であるので、十分に訓練しておこう。記述方式で出題される問題は、難度もやや高めである。教科書の章末問題や教科書傍用問題集の章末の演習問題などを繰り返し解いて訓練しておこう。

●ミスに注意し計算の工夫を身につけよう

マークセンス方式の問題は部分点などがない為少しのミスが得点に大きく影響する。普段から正確にミスなく計算することを心掛けるだけでなく、おかしやすいミスの種類を分析し、ミスをしないよう意識しながら演習に取り組むようにしよう。また、工夫して計算することで計算を簡略化してミスを防ぐこと、解答時間を短縮することを目指そう。演習で問題を解いた後は、みずからの解答手順や計算方法と模範解答の流れとを見比べて、より効率よく解答できる方法を確認しておくといい。

数学①

【出題傾向】

入試日程	問題	出題分野・テーマ	難易度
2/2 ・応用生物 ・生命健康科 ・現代教育	I	(1) 数学 I 2 次関数 (2 次方程式)	やや易
		(2) 数学 A 場合の数と確率 (順列・組合せ)	標準
		(3) 数学 I 2 次関数 (2 次方程式の解の公式)	標準
		(4) 数学 I 図形と計量 (三角比)	やや易
		(5) 数学 I データの分析 (平均値、分散)	標準
	II	数学 I 図形と計量、数学 A 図形の性質 (接線と弦の作る角、正弦定理、余弦定理、三角形の相似)	標準
2/3 ・応用生物 ・生命健康科 ・現代教育	III	数学 A 場合の数と確率 (順列)	やや易
	I	(1) 数学 I 数と式 (絶対値)	やや易
		(2) 数学 I 図形と計量 (三角比)	標準
		(3) 数学 I データの分析 (平均値、分散、共分散)	易
		(4) 数学 I 2 次関数 (グラフの頂点)	易
		(5) 数学 A 場合の数と確率 (反復試行の確率)	やや難
	II	数学 A 図形の性質 (三角形の内接円)	標準
2/5	III	数学 A 場合の数と確率 (和の法則、積の法則)	標準
	1	数学 I 数と式 (式の値)	易
	2	数学 I 数と式 (1 次方程式の応用)	やや易
	3	数学 I 図形と計量 (三角比)	やや易
	4	数学 I 2 次関数 (絶対値を含む 2 次不等式)	やや難
	5	数学 I 数と式 (集合の共通部分と和集合、要素の個数)	標準
	6	数学 I 図形と計量 (余弦定理、正弦定理)	標準
	7	数学 I 図形と計量 (円錐、側面上の最短経路)	やや難
	8	数学 A 場合の数と確率 (和事象の確率)	やや易
	9	数学 I データの分析 (平均値、標準偏差、中央値)	標準

●出題形式

2/2と2/3は大問Ⅰが小問集合のマークセンス方式で、大問Ⅱと大問Ⅲは記述式である。2/5はすべての問題が小問のマークセンス方式である。

●出題範囲と出題内容

数学Ⅰの全範囲と数学Aの「場合の数と確率」、「図形の性質」が主な出題範囲である。

出題内容は多岐にわたっているが、数と式の計算、方程式・不等式、三角比の値、データの平均値と分散、順列。組合せ、確率、三角形に関する諸定理などが中心になっている。

●難易度

教科書で扱われている標準的な難易度の問題が多いが、複数の分野の内容を組み合わせる考えなければならぬようなやや難易度の高い問題も含まれている。

【学習アドバイス】

●教科書の内容を正確に理解しておこう。

教科書の練習問題や章末問題が解けるようになっただけでは、同じ形式の問題は解けても入試問題に対処するには不十分である。教科書本文の内容をしっかりと理解するまで読み込んで、他の人にも論理立って説明できるように頭の中に整理して入れておけば、新しい形式の問題に出会っても戸惑うことなく対処することのできる応用力を身につけることができる。

●問題集で練習するときには、自分の頭で考えながら解くことに重点をおくよう意識しよう。

公式に当てはめて解くことで問題数をこなすより、1つの問題を教科書の内容に戻って自分で考えながら解き進める方がよい。そのような練習の積み重ねによって、どんな問題にも対処できる応用力を手に入れることを目指そう。

●記述式問題の練習も大切に。

記述式問題の答案では、簡潔な説明の中に論理がつながるような書き方が求められる。すぐに出来ることではないので、自分の作った答案を読み返し、筋の通った解答に仕上げる練習を繰り返そう。

英 語

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	[1]	長文「ベルが電話へ至る道」(内容説明、同意語句、表題)	やや難
	[2]	文法(空所補充)	標準
	[3]	会話文(空所補充)	標準
	[4]	語彙(同意語句選択)	標準
	[5]	並べ替え	標準
2/3	[1]	長文「大統領就任式の日への道のり」(内容説明、同意語句、表題)	やや難
	[2]	文法(空所補充)	標準
	[3]	会話文(空所補充)	標準
	[4]	語彙(同意語句選択)	標準
	[5]	並べ替え	標準
2/5	[1]	長文「ダンセイニ卿：文学界の知られざる巨人」(内容説明、同意語句、表題)	標準
	[2]	文法(空所補充)	標準
	[3]	会話文(空所補充)	やや難
	[4]	語彙(同意語句選択)	標準
	[5]	並べ替え	標準

●出題形式

いずれの日程も大問数は5題で解答数は40である。出題形式は全問、解答群から正答を選ぶマークセンス方式である。

大問の数は5題で、1題ずつ長文読解・会話文・文法・語彙・並べ替えに当てられている。

●問題の傾向

[1]の長文読解の英語長文は約550語でかなり長い。2024年度の内容は、2つの日程で偉大な人物の業績の紹介、もう一つの日程ではアメリカ合衆国の大統領選挙の方法の紹介だった。パラグラフごとに書かれていることをきちんと読めているかが問われる。[2]と[4]ではそれぞれ文法と語彙が身についているかを問う標準レベルの問題が並ぶ。[3]は2人の会話の5つの空所に入る適当な語句や文を10の解答群から選ぶ。やや紛らわしい選択肢もあるので十分考えて選ぶ必要がある。5つの大問の中でも[1]に続いて多くの時間を要する。[5]の並べ替えは2カ所の空欄に入る語の組み合わせを選ばなければならないので、要求された箇所の並べ替え全体ができないと正解できない。

●難易度

〔1〕の長文問題は読まなければならない分量がやや多い。また日程によって比較的読みやすい標準レベルのものとやや難解なレベルのものがある。難解なレベルの英文では特に、いくつか知らない語句に出くわすこともあるだろう。しかしそういう語句も文脈で推測しながら、設問の解答に必要な文中の情報を的確に探し当てる「読解力」が問われる。設問は比較的容易なものもあるが、一方でやや紛らわしくて安易に判断すると「ひっかかる」ものもあるので注意が必要だ。難易度は「標準～やや難」である。

〔3〕の会話文問題はおおむね無理のない出題だが、日程によっては会話の展開がやや把握しづらいものがある。また10の選択肢から5つを選ぶ形式なので、こちらも慎重に選ばないと「ひっかかる」可能性は大きい。難易度は「標準～やや難」である。

〔2〕の文法問題と〔4〕の語彙問題は、この種の問題としてはおおむね「おなじみ」の知識が問われており、しっかり学習して来たかどうかを問う「標準」的なレベルである。〔5〕の並べ替えの難易度も「標準」だ。入試問題でよく問われる「構文」や「文法」の知識が、確実に身についているかどうかを判断される問題が出題されている。難易度は「標準」である。

【学習対策】

●語彙力の強化

長い英語の長文を正確に読みこなすためには、豊かな語彙力が必要なのは言うまでもない。また語彙力そのものを問う大問もある。従って、普段から少しずつ単語や連語を覚えて行くことが大切だ。高校や予備校で指定された「単語集」で地道に覚えていくことが重要だが、単語や連語はそれが使用されている文と共に覚えることが肝心だ。例えば英語コミュニケーションの教科書や長文問題集に取り組む際に知らない単語が使われている文を見たら、その文を何度も音読して、その単語の意味を想像し、その上で辞書を引こう。もし想像した意味が辞書に出ていたら大きな自信につながっていくだろう。

●読解力の強化

長文を読むには語彙力の強化が必須であるが、しかし単語をたくさん知っていれば長文が読めるというのは誤った考え方だ。文法・語法そして構文の知識と運用力が語彙力と結びついてはじめて英文が読めるようになる。それでも理解できない英文に突き当たる場合には「文脈」を把握しようと何回も読み直すことが必要だ。普段からパラグラフごとに、その主題（メインアイデア：パラグラフの第1文に書かれていることが多い）を把握しながら読んで行き、前後のパラグラフとのつながり（論理展開）を意識する読み方を心がけよう。これは長文問題のみ

ならず、会話文問題を解く上でも有効であり、会話文問題も実質的には読解問題だからだ。もちろん会話文の場合にはパラグラフはないが、発言の相互のつながりという「文脈」を追う「読解力」が正答を得るカギである。

● 1冊の頻出問題集に最後まで、そして何度でも取り組む

文法と語彙の問題は、標準レベルとは言え何の対策もしなければ高得点に至ることはできない。定評のある「頻出問題集」を最後までやり切り、苦手な箇所は何度も解き直すことを勧める。お手持ちの頻出問題集を何回もしっかりとやり通そう。

● 過去問研究は重要

「過去問」に取り組む目的は、問題の傾向を知ることに限らない。もちろんそれが一番大事だが、加えてどの問題から解いて行くのか、時間配分はどうするかなどの計画を立てることも過去問研究の重要な目的だ。中部大学の英語はどの日程も最初に長文読解で始まるが、必ずしもここから解いていく必要はない。自分に合った取り組み方を見つけてほしい。

物理②

【出題傾向】

入試日程	設問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	I	運動をするベルト上に置かれたばねに繋がれた物体の運動	やや難
	II	クーロンの法則とコンデンサーの極板間にできる一様電場	標準
	III	トリチェリーの実験、熱量の保存、気柱の共鳴	やや易
2/3	I	ばねで繋がれた2物体と他の物体との衝突による単振動	やや難
	II	抵抗とコンデンサー及びスイッチを含む直流回路	標準
	III	熱量保存の法則と熱力学の第一法則	やや易
2/5	I	滑らかな床に置かれた台から斜方投射された小球の運動	標準
	II	一様磁場で回転する扇型コイルに発生する誘導起電力	やや難
	III	熱力学の第一法則と熱機関の熱効率	標準

● 出題形式

いずれの日程も大問が3題（解答数は30前後）で、解答形式は解答群から正答を選ぶマークセンス方式である。

●出題範囲と出題内容

(1) 出題範囲

物理基礎および物理の全範囲

(2) 出題内容

力学、電磁気学、熱力学を中心に、それぞれの分野における主要なテーマはもちろんのこと、他の色々な事柄をできるだけ多く取り入れた内容にして出題されている。

●問題の傾向と難易度

I は力学、II は電磁気学で、共に「物理基礎」を含む「物理」までの範囲で、III は熱力学・波動で「物理基礎」の範囲で出題されている。

力学では、運動方程式や力学的エネルギー保存の法則及び運動量の保存の法則を柱にし、相対速度や重心の運動やばねの分割など、様々な事柄を含ませたやや難易度の高い問題になっている。

電磁気学では、抵抗とコンデンサーを含む直流回路におけるスイッチの切り替えの瞬間の状況に対する考察、ガウスの法則によるコンデンサーの電気容量の導出と電場がする仕事による静電エネルギーの導出、ローレンツ力から誘導起電力を考えさせる問題など、法則の内容を十分に理解しているかを問うものになっている。

熱力学では、熱量保存の法則と熱力学の第一法則が理解できれば対応できる比較的考え易い問題になっているが、与えられた状況を正確に把握する力が必要である。

波動では、気柱の共鳴のみが出題されているが、ドップラー効果や屈折・反射や干渉など重要なテーマが多いので手を抜かずに学習しておくべきである。

【学習対策】

●教科書の説明をしっかりと読む

物理の問題を解くときに、まず求められることは、与えられた状況や現象に対してどのような法則が成立しているかを見抜くことである。そのためには、法則やそれに関連する公式を深く理解しておかなければならない。式を表面的に暗記しそれに当てはめるというのではなく、自由に使いこなせるようにしておかないと入試には対応できない。

教科書で目にする多くの式については、次の点に注意して理解しておくことが大事である。

- ・物理量の定義を与えている式なのか、法則を述べている式なのか
- ・主の法則を表す式なのか、それを変形して得られた式なのか

これによって、式の持つ意味や重要度の違いがはっきりし、

複雑で難解に感じられる内容も、整理された状態、あるいは理論として系統的に頭に入り、実はすっきりとした体系であることに気が付くだろう。

●問題演習を十分に行う

一般性のある法則を、具体的な個々の現象に対して正しく適用するのはなかなか難しいものである。問題に当たって法則や公式を実際に使ってみることによって、分かったという実感が得られ自然に応用力も付くのである。演習に用いる問題は次のように使い分けるとよいだろう。

・教科書の問題

物理量の定義の確認と暗記をし、単純化された状況で法則の基本的な使い方を習得する。

・問題集（学校で使っているものを中心に標準レベルのもの）

基礎を固め、各分野の典型的の問題や入試頻出問題をマスターする。さらに、融合問題にも慣れておく。

・過去に出題された問題

所要時間も含めて、求められているレベルの学力に達しているかを見る。また、出題のされ方、例えばどのような題材で何が問われているか、やや難しい問題に対するヒントの与え方や誘導の仕方なども見ておくと、落ち着いて入試に臨むことができるだろう。

化学②

【出題傾向】

入試日程	設問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	I	物質の構成（物質の分類，原子の構造）	標準
	II	酸化還元反応（電気分解・無機物質の性質）	標準
	III	有機化合物の分析（アルコール・フェノール類，アミノ酸とタンパク質）	やや難
2/3	I	蒸留装置	標準
	II	物質の構成（放射性同位体，炎色反応，化学変化と物理変化，物質の分類，原子の構造）	やや難
	III	酸と塩基（中和滴定，電離度と電離定数）	標準
	IV	実在気体の圧力と体積	標準
	V	金属の酸化還元反応（銅の電解精錬）	やや難
	VI	有機化合物の分析，合成高分子化合物，核酸	やや難

入試日程	設問	出題分野・テーマ	難易度
2/5	I	物質の構成（状態変化）	標準
	II	物質の構成（物質の分類，元素の周期性）	標準
	III	無機物質の性質（金属イオンの系統分析）	標準
	IV	酸化還元反応（アルミニウムの精錬）	やや難
	V	有機化合物の性質（炭化水素，合成高分子化合物）	標準

●出題形式

入試日程によって大問数は3～5と異なるが、解答数は32～33でほぼ等しかった。出題形式は解答群の中から正答を選ぶマークセンス方式である。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

「化学基礎」および「化学」の全範囲である。

b. 出題内容

「化学基礎」および「化学」の広範囲から偏りなく出題されている。具体的には、次のような事項が挙げられる。

「化学基礎」からは物質の分類、蒸留装置、原子の構造、元素の周期性、同位体と同素体、放射性同位体の半減期、化学変化と物理変化、状態変化、「化学」からは実在気体の圧力と体積、弱酸の電離度と電離定数、有機化合物の分析。

なお、化学基礎の内容ではあるが、教科書の「発展」や「参考」として記載されている項目、たとえば、電気分解、金属の精錬などについてはかなり詳細な知識を要する問題も出題されている。

●問題の傾向

解答群の中から正答を選ぶマークセンス方式であるが、「正しいものの組み合わせを選ぶ」や「該当するものをすべて選ぶ」という問題が見受けられ、これらの問題に対しては正確な知識が必要である。

●難易度

設問の多くは教科書に記載されている基本的な内容であるが、組み合わせ問題として出題されることもあり、難易度は標準でもあやふやな知識では得点につながらないものもある。また、計算を必要とする問題では、内容的には標準レベルであっても数値の桁数の誤りや加減乗除を逆にするようなミスは致命傷となるので特に注意が必要である。

【学習対策】

- 教科書の内容を正確に把握し、抜け落ちた箇所がないよう注意をすること

この際、教科書の索引を利用するのも一つの方法である。

化学用語の穴埋め問題や組み合わせ問題に関しては、初めから解答群に目を向けるのではなく、まずは自身で答えを考えて、その後で解答群から該当する事項を選ぶ習慣をつけることが真の練習になる。

- 教科書傍用の問題集で練習を繰り返すこと

「化学基礎」の教科書で取り扱われている「発展」や「参考」の項目からの出題が多く見受けられる。たとえば、放射性元素の半減期、電気分解、金属の精錬などに関する問題である。これらはいずれも本来は「化学」の教科書に記載されてもよいレベルの内容であり、詳細な知識が必要となる。

- 過去問で時間配分や問題の解答手順の対策を行うこと

特別に難度の高い問題は見られないので、大学入学共通テストの過去問などを解いて解答練習すれば良い。計算問題も複雑な計算を必要とする内容ではないので、電卓を用いず、筆算で解く習慣を身につけることが大切である。

生物①

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	I	A 生物の特徴 (顕微鏡の基本操作, 生物の多様性) B 生物の特徴 (光合成と呼吸) C 生物の特徴 (代謝と酵素)	標準
	II	A 遺伝子とそのはたらき (遺伝子の本体) B 遺伝子とそのはたらき (遺伝情報の分配)	やや難
	III	A 生物の体内環境 (神経とホルモンによる調節) B 生物の体内環境 (腎臓と肝臓による調節、体液とそのはたらき)	やや易
	IV	A 生物の体内環境 (花粉症, アレルギー) B 生物の体内環境 (自然免疫と適応免疫)	標準
	V	生態系とその保全 (人間活動による生態系への影響)	やや易

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	I	生物の特徴（呼吸）	標準
	II	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報とDNA, 遺伝子の発現）	標準
	III	A 生物の体内環境（体液とそのはたらき, 腎臓） B 生物の体内環境（神経とホルモンによる調節）	やや易
	IV	A 生物の体内環境（自然免疫と適応免疫） B 生物の体内環境（アレルギー, 自己免疫疾患）	やや易
	V	A 生態系とその保全（外来生物） B 生態系とその保全（富栄養化, 水質汚染）	やや易
2/5	I	A 生物の特徴（光合成と呼吸） B 生物の特徴（代謝とエネルギー）	標準
	II	A 遺伝子とそのはたらき（タンパク質, DNAの構造） B 遺伝子とそのはたらき（遺伝情報の発現）	標準
	III	生物の体内環境（腎臓による調節）	やや易
	IV	A 生物の体内環境（免疫グロブリンの構造） B 生物の体内環境（アレルギー, 免疫の応用）	標準
	V	A 植生の分布と多様性（植生の遷移） B 植生の分布と多様性（植生の遷移, 光合成）	やや易

●出題形式

いずれの日程でも、試験時間は60分、大問数は5題、解答数は40である。出題形式はマークセンス方式で生物用語の組み合わせや適切な文章の選択などが出題される。解答群から正答をすべて選ぶ設問や、正しいものを過不足なく含む組み合わせを選択肢から選ぶ設問もある。

●出題範囲と出題内容

出題範囲は「生物基礎」であり生物基礎の全範囲から出題される。大問ⅠとⅡは教科書の第1編「生物と遺伝子」から、ⅢとⅣは第2編「生物の体内環境の維持」から、Ⅴは第3編「生物の多様性と生態系」から出題される。

実験考察問題や計算問題も出題されるが、教科書の範囲を逸脱するような難問は出題されない。ただし教科書で「発展」や「Advance」として扱われている内容からの出題がある。

●問題の傾向

出題形式はマークセンス方式であるが、「解答群からすべて選べ」や「正しいものを過不足なく含む組み合わせを選択肢から選べ」といった形式の設問が多く、すべての用語・記述の正誤判定ができなければ正答は得られない。特に「正しい記述をすべて選べ」の場合、記述の中に含まれる生物用語や用いられている数値などをしっかり覚えていなければならない、文の精査に時間がかかるであろう。

●難易度

基本的な用語や記述の選択もあるが、「発展」や「Advance」
として扱われている内容からの出題も多いので一般的な生物基
礎範囲の入試と比べると難易はやや高い。中部大学を受験する
際には、「発展」や「Advance」に含まれる、高校での授業内
容よりも深い学習と理解が必要となることに注意しなければなら
ない。

【学習対策】

●教科書傍用問題集および市販の「生物」の問題集を活用しよう

教科書の範囲内での出題のため、教科書傍用問題集での演習が
受験対策として非常に有効である。教科書傍用問題集を解き、
覚えていない用語や生命現象、図、グラフなどを拾い上げるこ
とで自分の弱点を明確にして、それらをしっかり覚えていく学
習が効率的である。問題集を1回こなしただけでは力は身につ
かないので、同じ問題集を最低3回は繰り返し演習して知識を
定着させることが本当の力を得る近道である。

なお、中部大学の入試では「発展」や「Advance」の内容が
出題される為、「生物基礎」の問題集に加えて「生物」の問題
集も用意し、教科書を確認しながら「発展」や「Advance」の
該当箇所にあたる問題を演習しておくことが望ましい。ただし、
本格的な「生物」の入試レベルの問題や実験問題までこなす必
要はなく、用語の意味などを理解しておけば得点できる問題の
演習で十分である。

少ないながら計算問題も出題されているので、計算問題を苦
手にする受験生も多いが、基本的な問題のパターンは身につけ
ておきたい。

●教科書の内容を徹底的に理解しよう

標準的な問題が多いが、複数の用語の組み合わせの選択問題
や、文章選択問題などが出題される。教科書の太字になってい
る用語などは出題される可能性が高いが、「正しいものをすべ
て選べ」といった形式の設問で解を導く場合、記載された用語
の意味だけではなく生命現象のしくみを理解しておく必要があ
る。問題集などを用いて演習を行った後、理解が不十分であつ
た項目は教科書の該当箇所をしっかりと確認して欲しい。

教科書などでは、重要事項が図で説明されているものが多い。
用語とともに図そのもの（グラフであれば縦軸や横軸の数値な
ども含めた全体）を覚えてしまうことが、しくみ自体を理解す
る近道になる。実験問題の内容も、ほとんどの教科書で示され
ているものであるため、実験に関する用語や生物名、実験手順、
実験の目的などを学習しておこう。

国 語

【出題傾向】

入試日程	大問	出典・設問内容	難易度
2/2	第一問	四方田犬彦『「かわいい」論』（評論）：漢字問題、語句の意味、空欄補充、理由説明、類義語、傍線部の意味、内容と合致しないもの	標準
	第二問	池内了『ふだん着の寺田寅彦』（評論）：漢字問題、語句の意味、漢字の読み、空欄補充、文学史、傍線部の意味、類義語、本文趣旨把握	標準
	第三問	斉藤美奈子「旅する文学 岐阜編」：文学史、漢字問題、空欄補充、部首名、漢字読み * 記述式	標準
2/3	第一問	土井隆義「いまの若者たちにとって『個性的』とは否定の言葉である」(評論)：空欄補充、本文趣旨把握、漢字読み、理由説明	やや難
	第二問	木村朗子「古代を橋渡す」(評論)：漢字問題、語句の意味、空欄補充、類義語、傍線部の意味、本文内容と合致するもの	標準
	第三問	斎藤美奈子「旅する文学 静岡編」：空欄補充、文学史、漢字読み、漢字問題、慣用句、文法 * 記述式	標準
2/5	第一問	堀啓子『日本近代文学入門』（評論）：語句の意味、漢字問題、空欄補充、傍線部の意味	標準
	第二問	貞包英之『消費社会を問いなおす』（評論）：語句の意味、漢字問題、空欄補充、傍線部の意味、理由説明、内容と合致するもの	標準
	第三問	国語常識問題：慣用句、文学史、四字熟語	易

●出題形式

例年通り、いずれの日程も大問の数は3題で、解答数は33～34。原則として、与えられた5つの選択肢の中から選ぶマークセンス方式だが、日程によっては第3問が記述式になっている。

●出題範囲と出題内容

- 出題範囲：国語総合（古文漢文を除く）、現代文B。
- 出題内容：大問2つはいずれも評論だが、一方は論旨を問うやや硬い内容の社会科学系の評論、他方は語彙力・国語常識を中心に問う随筆に近い評論（本文の文字数はいずれも約3000字）。第3問は本文がある場合も、設問のみの場合もあるが、いずれも、文学史、慣用句、文法などの国語常識を問う。

●問題の分析

全体的には広く国語全般に関する知識、語彙力を問う問題が多い。具体的には、二字の熟語の一方をカタカナにして、その漢字と同じ漢字を用いた熟語を選ばせる漢字問題、二字熟語・四字熟語・慣用表現・ことわざ等に関する空欄補充問題、傍線部の語の意味や類義語を問う問題、文学史や文法に関する問題などである。

このほか、内容に関する設問としては、前後の文脈を踏まえて脱落した句や文を挿入する問題、傍線部の本文での意味や理由を問う問題、全体の要旨を問う問題、内容合致問題などが出題されている。内容合致問題では「合致しないものを選ぶ」という形式もあるので注意を要する。

●難易度

本文（素材文）の記述内容は比較的平易なものであり、各設問の立て方も標準的なもので、それぞれの選択肢もわかりやすい文章で書かれていて理解しやすく、全体的に「標準」と言ってもよい。ただし、2月3日日程の第1問だけは、本文が4000字弱あって長文であり、内容に関する設問の数も多いので、「やや難」となる。語彙力を中心とする国語常識問題も難問はほとんど見られず、標準的な設問である。

【学習対策】

●まず、過去問を！

中部大学のように、年度や日程の違いに関係なく入試問題の形式が統一されている場合、その対策は、何よりもまず過去の問題を実際に解いてみることだ。そうすれば、語彙力を問う空欄補充の問題が多いこと、類義語や文学史の知識を問う問題がよく見られることなどを実感できるに違いない。また、年度や日程の違いによっては小説も出題されるが、その場合も国語常識や語彙力を問う問題が中心であることがわかるはずだ。

●語彙力を問う問題への対策

語彙力増強を図るには、過去問（推薦・一般）を解きながら、国語便覧の、例えば「文学史」「接続語とその用法」「漢字の部首」「熟語の構成」「四字熟語とその意味」「体の部分を使った慣用語」「動物を使った慣用語」「日本のことわざ」「故事成語」「文法要覧」などの項目を確認していくと良い。また、ネットの検索機能を使って、類義語や注意すべき外来語などを確認しておくことも有効だろう。例えば、二字の熟語の空欄補充問題を解くには、それらの熟語がもつ肯定的（あるいは否定的）なニュアンスなど、頻用される局面も含めて幅広く身につけておくことが前提になるので、この点も意識しながら過去問を解いていくとより効果的だ。

●読解力を問う問題への対策

同じ語句の空欄補充でも、語彙力だけでなく読解力が求められる場合がある。例えば、本文の論理展開に関わる重要な語句や文を空欄にした上で正解を選択肢から選ばせる問題などは、当該箇所の前後の文脈の流れを的確に把握する力が求められる。まして、傍線部の内容やその意味、あるいは理由などを問う設問の場合は、十分な読解力が必要となる。

具体的な対処法としては、まず本文（素材文）の筆署名やタイトルを確認し、繰り返し用いられる用語やセンテンスに囲みや傍線などで印を付けながら、筆者の主張の流れを把握することが必要だ。また、評論では、用語や表現を言い換えながら論を進めていくので、その展開を具体的に跡づける力が必要とされる。後に繋がる語句やセンテンスが、前のものの言い換えになっているのか、反対の立場に立っているのかを区別して印を付けながら読むことも効果的だろう。傍線部の内容・理由を問う問題では、このような作業を踏まえた上で、傍線部の前後の記述を中心に判断根拠を求め、傍線部との整合性を確認しながら選択肢を吟味するとよいだろう。

本文内容合致問題では、選択肢を一つ一つ吟味分析することによって、本文に見られない記述、本文の趣旨に矛盾する記述を含む選択肢を消去していく方法を取るのがいいだろう。注意すべきは「本文の内容に合致しないものを選べ」という設問もあることだ。まず、設問の指示が「合致しない」ものを選ぶことを確認した上で、選択肢の中で本文に合致する内容・表現を含んでいるものから確認しながらチェックしていくようにしよう。残ったものが一つになれば、それが正解だが、選択肢の文章のどこが本文の趣旨と一致しないのかを確認するようにしよう。

読解力を高めるには実際の入試問題を数多く解くことが一番だが、中部大学の場合、素材として用いられる本文の難易度は標準的でありテーマもわかりやすいので、その過去問は、語彙力増強はもちろん、読解力向上にも役立つ。本学の過去問を一通り解き終えたら、引き続き、市販の標準問題集を解いていくのが良いだろう。

世界史

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	〔Ⅰ〕	第二次世界大戦後の国際秩序の形成	標準
	〔Ⅱ〕	ルネサンス・大航海時代の歴史	標準
	〔Ⅲ〕	アフリカ古代史から近代史	標準
	〔Ⅳ〕	イギリスのインド・中国への進出の歴史	標準
2/3	〔Ⅰ〕	イギリスと清の関係	標準
	〔Ⅱ〕	十字軍の歴史	標準
	〔Ⅲ〕	ラテンアメリカ史	標準
	〔Ⅳ〕	19世紀のフランス史	標準
2/5	〔Ⅰ〕	古代中国史	標準
	〔Ⅱ〕	ロシア中世史から現代史	標準
	〔Ⅲ〕	イスラーム史（7～16世紀）	標準
	〔Ⅳ〕	冷戦の歴史	標準

●出題形式

例年通りいずれの日程の試験も大問4題、解答数は32であり、いずれもマークセンス方式である。

●出題範囲と出題内容

- a. 出題範囲
世界史の全範囲である。
- b. 出題内容
あらゆる時代・地域から出題されている。

●問題の傾向

4文から正文を選ぶ問題、4文から誤文を選ぶ問題、2文の正誤の組合せを選ぶ問題、空欄補充などの単答問題、出来事を古いものから新しいものへ配列する問題（整序問題）、地図問題などが出題されている。

時代に関しては、古代・中世・近代・現代からまんべんなく出題されている。

地域に関しては、西洋史と東洋史のバランスはほぼ半々である。

●難易度

ほとんどの問題が標準レベルであり教科書レベルで対応できる。しかし、一部の教科書にしか掲載されていない事項も出題されるので、用語集や図版集などでの知識の補足が必要である。4つの文から正文を選ぶ問題、4つの文から誤文を選ぶ問題、2つの文の正誤の組み合わせを選ぶ問題は、単なる人名・用語などの暗記だけでは対応できない。特に2つの文の正誤の組み

合わせを選ぶ問題は、2つの文の正誤が両方ともわからないと答えられないので正確な知識が求められる。また、冷戦時代からの出題もあり、おそらく受験生の多くが手薄になる時代であろうと思われるので注意が必要である。

【学習対策】

●教科書の内容を最初から最後まで一通り理解すること

教科書を最初から最後まで読み通すことが重要である。例えば古代ギリシアを完全に暗記するまで古代ローマへ進まないというような完全主義的な読み方をすると冷戦時代まで読み通せない可能性がある。また、学習が進んだ段階で、以前に良くわからなかった事項が「そういうことだったのか」とわかるというようなこともあるので（例えば一条鞭法だけではなく一条鞭法と地丁銀制を比較して覚えるほうが理解しやすい）、ある程度のことを覚えてたらどんどん次の時代や地域に進むと良い。

●年表学習も欠かせない

3つの出来事を時代の古いものから配列する年代整序問題もあるので年表学習も欠かせない。本来、年表を見て出来事などの生起順を押さえてから出来事の詳細を押さえるという順を踏むべきであるが、教科書では最後に年表があるので年表が十分に活用されていないことが多いようである。まずは年表で大まかに出来事の流れを把握し、その際には同時代のことに意識を向けることも忘れてはならない。そうすれば「14世紀の危機」「17世紀の危機」といった意味がよくわかるはずである。

●教科書併用の問題集で演習を繰り返すこと

重要な事項は紙に書いて覚えるのが有効である。マークセンス方式であるので、漢字などを正確に覚える必要はないという考えは誤りであり、漢字は目で追うだけでなく紙に書いて正確に覚えよう。

また、理解したつもりがそうでないこともあり、それは演習をしてはじめて気付くので、演習によって知識の欠落、不正確さ、誤った理解などを発見しよう。

●過去問の対策を十分におこなうこと

本番と同じ時間で過去問を解いて、何点取れるかを知り、どこで失点するのかを知ることも必要である。また、正しく答えられた問題でも、確信をもって答えられたのか何となく正解であったのかの区別も大事だ。また、失点した問題については、知識の欠如が原因なのか、知識の不完全さが原因なのかを考えることも大事だ。過去問が一通り終わったら標準的な問題集を選んでひたすら演習を繰り返そう。

日本史

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	〔Ⅰ〕	A 5～6世紀の対外関係と仏教 B 14～15世紀のアイヌと和人	標準
	〔Ⅱ〕	近世の洋学（蘭学）者	標準
	〔Ⅲ〕	明治時代の貿易と産業【グラフ有り】	標準
	〔Ⅳ〕	近現代の日本の植民地政策	やや難
2/3	〔Ⅰ〕	A 奈良時代の土地政策 B 中世の貿易と人的交流	標準
	〔Ⅱ〕	織田信長の楽市令【史料問題】	標準～ やや難
	〔Ⅲ〕	明治時代の内閣と政党	標準
	〔Ⅳ〕	太平洋戦争開戦直前期の外交	標準～ やや難
2/5	〔Ⅰ〕	A 『後漢書』東夷伝・「魏志」倭人伝 B 執権政治の形成	標準
	〔Ⅱ〕	近世初期の対外政策【史料問題】	標準
	〔Ⅲ〕	明治時代の日朝関係	標準
	〔Ⅳ〕	ラジオ体操の歴史	標準～ やや難

●出題形式

各日程とも全問マークセンス方式で、設問数は合計32問。問題文中の空欄や下線部に該当する語句を選択、あるいは、設問文に該当する説明文を1つ選ぶ形式の設問で構成されている。

●出題範囲

日本史の全範囲から出題される。

●出題内容

古代～近現代の政治・外交・経済を中心に出题され、文化史からの出題も見られる。

各日程における出題内容を整理すると、おおむね以下の通りとなる。

- 〔Ⅰ〕 古代・中世（問題文A＝古代／問題文B＝中世）
- 〔Ⅱ〕 近世（織豊政権期～江戸時代）
- 〔Ⅲ〕 近代（主に明治時代）
- 〔Ⅳ〕 近現代（主に昭和戦前期）

●問題の傾向

各大問とも（古代～近現代いずれの時代の問題にせよ）基本的な語句を問う設問が大半を占め、一部の設問は4つの選択肢の文章のうち「最も適当なもの」または「誤っているもの」を

選ぶものとなっているが、これも基本的な内容のものがほとんどである。

各日程につき、いずれかの大問で史料もしくはグラフが用いられており、これに関連した出題が見られる。

各大問の問題文は、その時代全体についてではなく特定のテーマに沿った内容になっているため、日程によってはある時代が全く出題されていないこともある。特に〔Ⅳ〕では昭和戦前期に関する出題が続いており、しかも高校教科書よりも詳細な内容となっていることが多く、戸惑いやすくやや難しいと感じるだろう。

●難易度

大部分の設問が基本的な語句や説明について問うものとなっているため、おおむね「標準」レベルと言える。ただし、〔Ⅳ〕の問題は受験生にとってはやや詳細な内容であることが多く、「標準～やや難」となる。

【学習アドバイス】

●まずは教科書をきちんと読もう

中部大学で出題される日本史の問題において、重箱の隅をつつくようなものは見られない。ほとんどが基本的な内容であるから、普段から教科書を中心とした学習に励んで欲しい。特に語句を問う設問の割合が高いため、教科書本文にある太文字の用語はもちろんのこと、本文中に記されている人名・事件名・法令名・作品名などの用語も注意して覚えよう。

●基本的な用語を覚えるために

ただ単に教科書を読むだけでは内容を理解し覚えることはできない。特に高校日本史は中学レベルと比べると格段に用語の数が多くなっており、頭の中が混乱しやすくなる為、教科書の内容に対応した空欄補充式の問題集を一冊入手し、教科書を読み進めながら教科書に該当する箇所を問題集で解いていこう。用語は手を動かして書いていくことが覚えるための近道である。

●史料やグラフに注意しよう

中部大学では史料やグラフを用いた出題が見られる。これに対応するためにも、普段から史料集（教科書とは別に購入する副教材）も学習に取り入れよう。史料集では、その史料の重要な箇所が赤字もしくは太字で示されているので、その箇所を中心に史料文とその現代語訳を必ず読んでおこう。

また、教科書には多くのグラフが掲載されており、本学で出題されるグラフを用いた設問も教科書のグラフを引用している。教科書を読んでいてグラフが出てきたら、何故そのグラフが示されているのかをグラフを見ながら考えよう。

●年代順に主な出来事を整理しよう

中部大学では特定のテーマに沿った問題が多く出題されているためやや難しく感じられることだろう。問題文そのものが特定の内容となっていることに加え、空欄の語句を解答するためのヒントがその前後の年代や世紀である場合が多い。

こうした特定のテーマに沿った問題文をきちんと読みこなせるようになるためにも、普段から主要な出来事を年代順に整理する習慣を身につけておこう。教科書には、本文の脇に主要な出来事をまとめた年表が掲載されており、これを積極的に活用し、出来事の発生順が理解できているかどうか確認しよう。

地 理

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	第1問	南アジア	標準
	第2問	地域調査と地形図	標準
	第3問	農牧業	標準
	第4問	アフリカ	標準
2/3	第1問	東南アジア、西アジア、ラテンアメリカと日本とのかかわり	標準
	第2問	地図と地理情報	標準
	第3問	食料問題	標準
	第4問	ロシア	標準
2/5	第1問	ラテンアメリカ	標準
	第2問	環境問題	標準
	第3問	生活文化	標準
	第4問	ヨーロッパ	標準

●出題形式

全問マークセンス方式である。いずれの日程も大問数は4題、解答数は35である。

●出題範囲と出題内容

出題範囲は地理の全範囲である。地理情報と地図、自然環境、資源と産業、人口・都市・生活文化、世界の諸地域などの分野から出題されている。世界の諸地域は、日程によっては2題出題されることがあり、他大学に比べてやや重視されていると言える。地形図を用いた問題も出題され、基本的な読図力が試されている。

●問題の傾向

選択肢から正答を選ぶマークセンス方式であり、選択肢は4つに固定されている。どの大問もリード文から問いが立てられており、リード文の空欄補充、リード文の下線部に関する設問からなる。語句を選ぶ問題のほか、文の正誤を判断する問題、統計表の国名などを選ぶ問題、語句などの組み合わせを選ぶ問題などの形式で出題されている。

●難易度

設問のほとんどは教科書に記載されている事項から出題されている。その意味では基本的な問題であるが、一部には教科書に記載されていてもやや細かい内容のものが出題されることもある。

【学習対策】

●教科書の内容を隅々まで理解すること

どの問題も教科書に書かれていることから出題されている。教科書の本文はもちろん、欄外の注や地図・グラフなども含めて隅々まで目を通して内容を理解しておこう。自分が使っている教科書には記載されていないことから出題される可能性もあるから、用語や地名などは『地理用語集』（山川出版社）を利用するのが効果的であろう。

●過去問を解く

例年同じような形式と難易度で出題されているので、過去問を解いて、どの程度の内容まで勉強すればよいのかを把握しておこう。特に地形図の読図は、過去にどのような問題が出題されているのかを知っているかどうかでかなり差がつく。これ以外の分野も、過去問と教科書の記述を比較して、教科書のどの部分が出題されたのかがわかれば、今後の学習目標を立てやすいだろう。

政治・経済

【出題傾向】

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/2	〔Ⅰ〕	政治分野（日本の司法制度）	標準
	〔Ⅱ〕	政治・国際分野（世界のさまざまな政治体制）	標準
	〔Ⅲ〕	国民生活分野（世界の社会保障制度の歩み）	標準
	〔Ⅳ〕	経済分野（通貨と通貨制度）	標準

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	〔Ⅰ〕	政治・国際分野（人種差別問題と難民問題）	やや難
	〔Ⅱ〕	政治分野（国会）	標準
	〔Ⅲ〕	国際分野（国際貿易と通貨体制）	標準
	〔Ⅳ〕	国民生活分野（地球環境問題と日本の公害問題）	標準
2/5	〔Ⅰ〕	政治分野（55年体制と政権交代）	標準
	〔Ⅱ〕	政治分野（男女平等について）	標準
	〔Ⅲ〕	経済分野（市場機構）	標準
	〔Ⅳ〕	国民生活分野（都市問題）	標準

●出題形式

いずれの日程も大問数4題、解答（マーク）数50問である。解答方式は全問マークセンス方式での四肢択一問題である。いずれの日程も9割程度が語句選択問題で、短文選択問題が数問、他に語句の組み合わせ選択問題や出来事の順の組み合わせ選択問題、計算問題などで構成されている。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

政治・経済の全範囲である。

b. 出題内容

政治・経済のあらゆる分野から出題されている。政治、経済はもちろん国民生活・国際の各分野から出題されている。政治分野からは日本国憲法、平等権、日本の司法制度や裁判所、人権問題、人種差別問題、議院内閣制、大統領制、社会主義国の政治体制、イスラム国の政治体制、国会、金権政治と汚職などが出題されている。経済分野では、寡占市場や需要供給曲線、通貨と通貨制度などが出題されている。国際分野では難民問題やブロック経済、ニューディール政策、ブレトンウッズ体制とGATTなどの国際貿易・通貨体制が、国民生活分野では地球環境問題と日本の公害問題、人口問題、社会保障問題、都市問題などが出題されている。

●難易度

ほとんどの設問は教科書の内容に準拠した標準的な問題である。やや難しいと思われるのは2月2日日程の通貨に関する問題と2月3日日程の難民に関する問題ぐらいであるが、これらの問題が解けなくても、多くを占める標準的な問題を確実に正答すれば十分に高得点が目指せる内容である。

【学習対策】

●教科書の内容を徹底的に理解しよう

政治・経済・国際関係・国民生活の各分野から出題される可能性があるため、すべての分野を学習する必要がある。また、教科書に準拠した標準的な問題が多く出題されるため、まずは教科書のすべての内容をしっかりと理解するようにしよう。そして、学習する際には教科書の重要語句をただ暗記するだけでなくその前後の文脈も理解しながら学習しよう。また、教科書の欄外に示されている語句なども問われることがあるので見落とさずに学習しておこう。計算問題や図表の読み取り問題にも対処できる学習も必要である。

●用語集や資料集を利用しよう

教科書を学習していてわからない用語や難解な用語が出てきたら、すぐに調べられるように用語集を用意しておくとうりである。用語集には『政治・経済用語集』（山川出版社）や『用語集 政治・経済』（清水書院）などがある。また、教科書で学習した事柄について理解を深めるために、資料集なども積極的に活用してほしい。

●問題集や過去問を解こう

知識を定着させるために多くの演習問題を解いてほしい。教科書の内容を確認できる基礎的な問題集がよいだろう。また、中部大学の過去問題を解くことで実力を試すことができるとともに、傾向もしっかりとつかむことができる。